

機械器具 25 医療用鏡
一般医療機器 再使用可能な内視鏡用非能動処置具 38818000
アドテック 内視鏡用処置具

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造

1-1. ストレートタイプ



1-2. カーブタイプ



(先端部については製品の一例を示す。)

ハンドルは下記の 2 種からいずれかを選択する。

(1) PM954R

(2) PM957R



2. 原材料

ステンレススチール、タングステンカーバイド

3. 原理

本品を適切なサイズのトロッカーより挿入し、ハンドルを直接、回転させ、ジョーの角度を調整後、組織にジョーをセットする。ハンドルを開閉することにより組織又は異物の把持、回収、切除、クリップ、結紮、管腔の拡張、探針等の機械的作業を行う。

【使用目的又は効果】

内視鏡治療時に専用の内視鏡とともに使用し、組織又は異物の把持、回収、切除、クリップ、結紮、管腔の拡張、探針等の機械的作業に用いる。

【使用方法等】

1. 本品を使用前に必ず洗浄、滅菌を行う。
2. 本品を使用前に、ジョー部分が損傷していないかを確認する。
3. 正しく組み立てを行い、ハンドル部を可動させた際に先端ジョーがスムーズに開閉するかを確認する。
4. 先端ジョーを回転させるには、ハンドルを直接、ジョーが望ましい位置にくるまで回転させる。
5. ハンドルを操作し、ジョーの開閉を行うことにより組織又は異物の把持、回収、切除、クリップ、結紮、探針、剥離、切離等の機械的作業を行う。
6. 本品を適切に分解し、できるだけ早く洗浄を行う。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 使用前

- 本品の各パーツは専用のものを組み合わせて使用すること。
 - 本品使用前に以下の点を確認し、正常に動作することを確認してから使用すること。
また交換可能なパーツの場合は新しいものと交換し再度以下の点をチェックし使用すること。
- (1) 本品が正しく組み立てられているか。
 - (2) 鉗子先端部に損傷、異常はないか。
 - (3) ハンドル・シャフトに損傷、異常はないか。
 - (4) ジョーの開閉がスムーズに行われているか。
 - (5) 製品の動きに異常はないか。

2. 使用中

- 血液や組織片は局方滅菌精製水をひたしたリントフリークロス of 柔らかい布でこまめに清拭すること。
- 本品の動作、形状に異常が生じたときは速やかに使用を中止すること。

3. 使用後

- 使用後は出来るだけ早く洗浄を行うこと。
- 分解・組立のときは、無理な力を加えないこと。無理な力を加えると製品の故障につながる。

4. 組立（以下の方法に従い、正しく組立を行うこと。）

- (1) フレキシブルテンションロッド（軸棒）をインナーチューブに差し込む。
二重孔の中心へ差し込むこと。



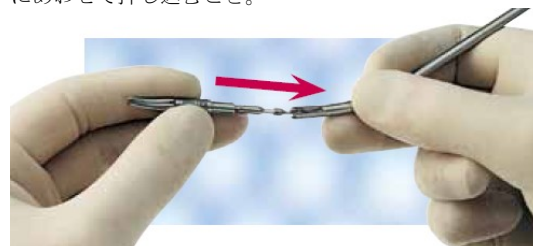
- (2) テンションロッド（軸棒）の先端は、インナーチューブからはっきり見えるまで押し出す。



- (3) 矢印の向きにテンションロッド（軸棒）を回して、ジョーと接続する。



- (4) テンションロッド（軸棒）に接続されたジョーをインナーチューブに挿入する。
ジョーを、インナーチューブの先端部にある 4 つのスリットにあわせて押し込むこと。



- (5) フレキシブルアウターシャフトにインナーチューブを挿入する。



- (6) ハンドルのスプリング部分を引き、シャフトをスプリング部分に挿入する。軽く回すことができる程度のところで、スプリングを戻し固定する。



※(1)～(5)はカーブタイプのみ。ストレートタイプはジョーインサートをアウターチューブに挿入した後、(6)を行うこと。

5. 分解（以下の方法に従い、正しく分解を行うこと。）

- (1) ハンドルのスプリング部分を手前に引き、止まったところでシャフトを外す。
ハンドルにラチェットがかかっている場合は、完全にラチェットを外すこと。



- (2) フレキシブルアウターシャフトからインナーチューブを外す。



- (3) フレキシブルテンションロッド（軸棒）をジョーの方向に引きだす。



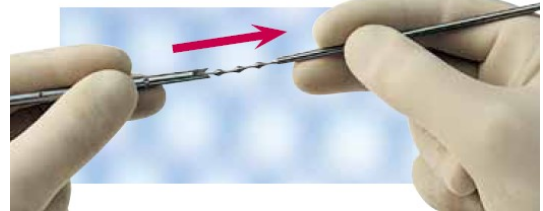
- (4) ジョーを矢印の方向にゆるめる。



- (5) ジョーをゆるめた後、テンションロッド（軸棒）を、矢印の方向に引き抜く。



- (6) インナーチューブからテンションロッド（軸棒）を、矢印の方向に引き抜く。



※(2)～(6)はカーブタイプのみ。ストレートタイプはアウターシャフトからジョーインサートを引き抜くこと。

【使用上の注意】

<不具合・有害事象>

以下の不具合・有害事象が発現する可能性がある。

〔重大な不具合〕

- 不適切な取り扱い、洗浄、管理により破損、変形、腐食、分解、変色、屈曲が生じる可能性がある。
- 金属疲労による機械器具の破損、分解

〔重大な有害事象〕

以下のような有害事象が発現した場合は、直ちに適切な処置を行うこと。

- 不適切な取り扱い、使用方法により血管、神経、軟部組織、筋肉、内臓、骨、若しくは関節の損傷
- 破損した機械器具の破片の体内留置
- 感染症

以上の有害事象の治療のため、再手術が必要な場合もある。

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

- 高温・多湿・直射日光及び水濡れを避けて保管すること。院内での移動保管に際しては本体に衝撃が掛からないように取扱いに注意すること。
- ラチェットのある器具はラチェットをかけずに開放した状態にすること。保管時にラチェットを深くかければかけるほど器具に掛かる負荷も増し、ラチェット部の寿命を縮め破損の原因となる。
- ステンレススチールとアルミニウムのように異種金属の手術器具は、原則として別にセットすること。これは長期間保管の際に異種金属同士の電解沈着を防止するためである。

【保守・点検に係る事項】

- 適切な洗浄、取扱及び滅菌、そして標準的な日常メンテナンスを怠った場合、器具の機能低下要因となる。
- 溶液（例：生理食塩水、次亜塩素酸ナトリウム、ヨード含有消毒剤など）にはステンレススチールに腐食や孔食を起しやすいため長時間の接触を避ける、接触後は迅速に洗い流すこと。
- 漂白剤や水銀の重塩化物などの強酸（pH4 以下）又はアルカリ（pH10 以上）製剤を消毒に使用しないこと。
- ステンレススチール製の手術器具を長時間血液や生理食塩水にさらすと腐食が生じ、孔食や磨耗の発生原因になる。

1. 洗浄・滅菌

- 血液や体液に汚染された器具を取扱う際は、適切な保護用のマスク、手袋、メガネ、防水性エプロン等を着用すること。
 - 器具に付着した血液及び体液は乾燥させないこと。
 - 洗浄及び滅菌の前に手術器具を適切に分解すること。
 - 壊れやすい手術器具は先端の損傷を防ぐために注意して取り扱うこと。特に洗浄及び滅菌の際は注意すること。
- 金属間の電解作用を避けるため、異なる金属組成の器具は別々に処理すること。
- 血液や体液に汚染された手術器具を安全に取り扱うために、必ず以下に概説する手順に従うこと。全ての器具は使用前に必ず滅菌をすること。

(1) 洗浄

- 粘液、血液、その他の体液の凝固を防ぐため、手術器具を熱湯や消毒剤に浸けないこと。
- 金属ブラシ（スチールウール、ワイヤーブラシ、パイプクリーナー等）や硬質ナイロンスポンジ、研磨剤入り洗剤を使わないこと。
- 接合部のある器具は、先端を開いた状態で洗浄すること。接合部と把持部は特に注意して洗浄すること。分解できるものは分解して器具の全面を洗浄すること。
- マイクロサージェリー用器具やコーティングされた器具等、デリケートな器具は、手作業で浸漬洗浄すること。超音波洗浄機は使用しないこと。
- コーティングされた器具は表面コーティングを保護するため、他の器具とは別に洗浄すること。
- 陽極酸化アルミニウム器具は、従来の機械洗浄機の使用により色が落ちることがある。

① 予備洗浄

- おおまかな汚染物を除去し、各器具を十分にすすぐ。生理食塩水や塩素系溶液は使用しないこと。

② 手作業による洗浄

- 器具を洗浄液に完全に浸漬すること。
- 手作業による洗浄には、酵素が配合された洗浄剤や、蛋白質凝固変性作用のない洗浄剤を使用すること。頑固な汚れは洗浄液の中で軟らかいブラシ等を用いて洗浄すること。洗浄剤の濃度、温度、時間、及び再利用の可否に関しては洗浄剤の取扱説明書に従うこと。
- 内腔のある器具は大きいシリンジ又はウォーターガンを用いて管腔内の汚れを完全に洗い流すこと。

③ 超音波洗浄及びウォッシャーディスインフェクター

- 超音波洗浄を行う場合の水位や洗浄剤の濃度、温度に関しては洗浄機の取扱説明書に従うこと。
- ウォッシャーディスインフェクターを用いる場合は、洗浄機の取扱説明書に従い、低発泡性の洗浄剤を使用すること。消毒及び洗浄を最適に行うためには、水質によって洗浄剤の種類と濃度を調節する必要がある。
- ウォッシャーディスインフェクターを用いる場合は、洗浄機の取扱説明書に従い、洗浄用バスケットに器具を詰め過ぎないように配置し、陰を作らないようにすること。

④ すすぎ

- すすぎには完全脱イオン水（RO 水）を使用すること。市水（一般の水道水）に含まれる残留塩素や有機物質が器具表面のしみや錆発生の原因となる。

⑤ 乾燥

- 洗浄後の器具は直ちに乾燥させ、湿った状態で放置しないこと。エアガンを用いて管腔内の水分を除去すること。

(2) 滅菌

器具の滅菌は高圧蒸気滅菌（プレバキューム式）によって行うこと。推奨される滅菌条件は以下のとおりである。

134℃、5 分

2. 日常のメンテナンス

(1) 注油/組立て

- 器具は再生処理工程の中で、毎回潤滑処理を行うこと。特に接合部及び可動部分の潤滑が重要である。また、メンテナンスオイルを使用する場合は、乾燥後冷却した器具に注油をすること。
- 鉱物油、石油、シリコンベースのオイルは使用しないこと。接合部への注油は、非シリコン系、水溶性の潤滑油、例えば Aesculap 器具用オイル（JG598 又は JG600）などを用いて滅菌前に行うこと。
- 器具を再度組み立てる際は、必要に応じて組立て前にバスケットかトレイに入れること。
- 先端の折れ曲がり、くぼみ、亀裂、ずれや腐食がないかを点検すること。錆、変色又は損傷した器具は必ず取り除くこと。可動部分を点検し、各部が正しく作動することを確認すること。
- 応力亀裂を避けるために、滅菌する際に器具を完全に開放しておくか第一ラチェットで閉じること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

問い合わせ窓口：マーケティング部 TEL (03) 3814-2522

製造元：エースクラップ社、ドイツ

Aesculap AG